

【概略】

平成26年度 鮫川村財務状況把握の結果概要について

総合評価

債務償還能力 [地方債等の債務の大きさとその償還原資を獲得する能力]

問題なし

実質債務月収倍率(②)が低いことから、債務の水準に問題はない。
また、行政経常収支率(④)が高いことから、償還原資の水準に問題はない。

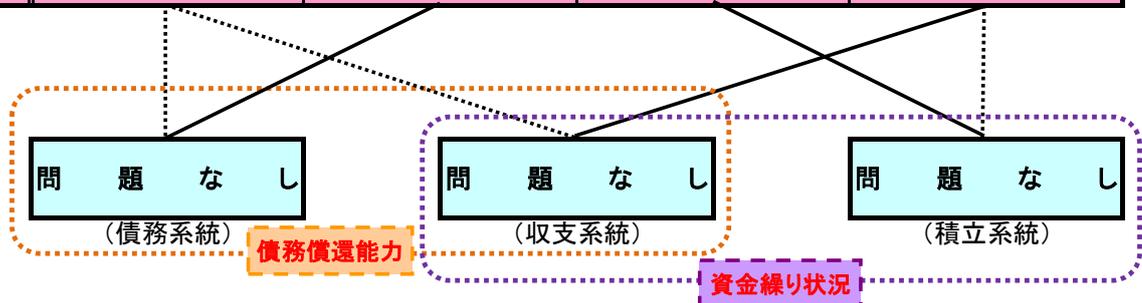
資金繰り状況 [経常的な収支と積立金等の備えからみた資金余裕状況]

問題なし

行政経常収支率(④)が高いことから、経常的な収支の余裕度の水準に問題はない。
また、積立金等月収倍率(③)が高いことから、資金繰り余力の水準に問題はない。

財務指標

指標	①債務償還可能年数 $\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収支}}\right)$	②実質債務月収倍率 $\left(\frac{\text{実質債務}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$	③積立金等月収倍率 $\left(\frac{\text{積立金等}}{\text{行政経常収入} \div 12}\right)$	④行政経常収支率 $\left(\frac{\text{行政経常収支}}{\text{行政経常収入}}\right)$
問題なし	3.8年	7.8月	7.2月	17.1%
やや注意		18月	3月	10%
注意	15年	24月	1月	0%



今後の見通し

○収入面については、人口減少に伴う地方交付税や地方税の減少が見込まれることなどから、行政経常収入は減少する見通しである。支出面については、保育園及び農業者トレーニングセンターに対する指定管理料の増加に伴い物件費が増加することなどから、行政経常支出は増加する見通しである。以上により、行政経常収支は悪化する見通しである。

○債務の状況については、地方債現在高が、引き続き起債額を償還額以内に抑制する方針のもと、地方債の償還が進むことから減少する見通しである。

○積立金等の状況については、その他特定目的基金は積み増しするものの、財源不足による財政調整基金の取崩しにより微減する見通しである。